

Ⅱ 第32回全国都市緑化あいちフェアの展開に向けて

1. 展開に向けた基本的考え方

1-1. ストーリーの設定

- ・フェアの具体的な展開を検討する上で、イメージを共有化するために、フェアの展開に向けてのストーリーを設定することにする。

あいち・花と緑の報告祭 ～モリゾー・キッコロを迎えて～

愛知万博から 10 年

私たちが「自然の叡智」の大切さを学び・取り組んできた成果を
モリゾー・キッコロに報告することで、
今の暮らしを見つめ直し、つぎの 10 年の取り組みにつなげます

- ・平成 18 年 6 月にとりまとめられた「愛・地球博 基本理念の継承と発展に向けて」に「繰り返し伝える」ことの大切さをうたっている。
- ・「自然の叡智」の大切さを学んだ私たちは、これを忘れることなく将来につなげていくため、「あいちの花や緑」に囲まれた中で、この 10 年の成果と未来への希望をモリゾー・キッコロに報告する機会としてこのフェアを捉えることとする。

① 愛知万博で学んだ「自然の叡智」を継承するフェア

- ・「自然の叡智」をテーマに開催された 2005 年の愛知万博、およそ 3 万人のボランティア、30 の NPO、235 の市民グループの支えにより成功に導かれ、会場を訪れた 2,200 万人、さらに多くの地球市民は、「自然の叡智」の言葉に出会い、「モリゾー・キッコロ」に出会い、多くを体感し、自分たちにも地球的課題の解決のためにできることがあることに気づき、「愛知ターゲット」、「名古屋議定書」などが採択された COP10 の開催など環境の取り組みを続けてきた。これまでの取り組みを振り返りながら、「自然の叡智」を繰り返し伝えるフェアとする。

② 「緑はつなぎ手」としてみんなで作るフェア

- ・愛知万博を多くの方々の力により成功に導いた愛知だからこそ、「緑はつなぎ手」とした参加の多様化、増大により、みんなで作るフェアの開催を目指す。

③ ものづくり県、愛知の素晴らしさを発信するフェア

- ・とりわけ工業県にみられる本県は、他方、農業県でもあり、なかでも、花卉産出額は 50 年連続日本一を続けており日本を代表する一大生産地であることや本県から生まれる様々な「愛知県産」にこだわるなど、「いき・ものづくり」※をキーワードに「あいちの魅力」をより広く発信するフェアとする。

※「いき・ものづくり」とは、農業「いき」+工業「ものづくり」=いき・ものづくりを示す。

1-2. 幅広い県民協働の展開

「緑はつなぎ手」として、協働する人々の多様化・拡大を図る

- ・全国都市緑化フェアは、社会の熟成とニーズの変化に伴い、その役割や課題が時代とともに変化してきている。

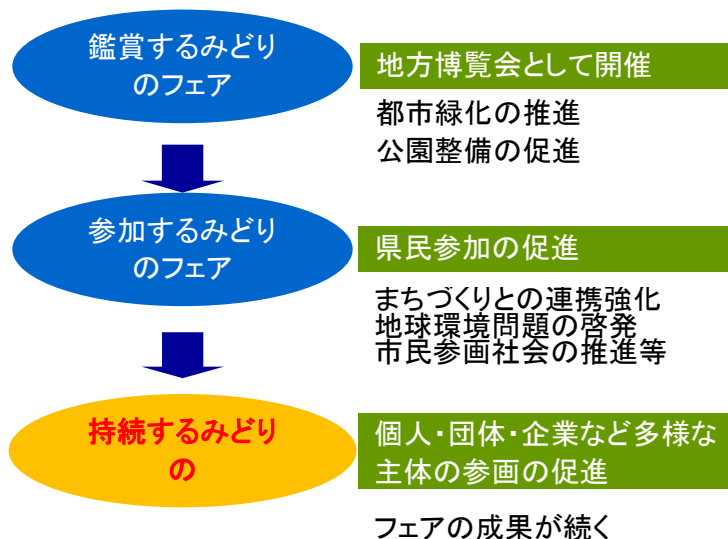


図 II-1 緑化フェアの方向性

- ・今後のフェアには、多様な主体の参加、事業成果の継続性等の観点からの展開が必要となってきたと考え、あいちフェアでは「緑はつなぎ手」として、さらに協働する人々の多様化・拡大とともにフェア後にも成果が続く取り組みを図る。

① 異分野交流の推進

- ・自動車と花、緑化企業とアーティストなど、異分野交流による協働・参加を促す。

② 多様な協働スタイルの提供

- ・協働しやすい仕組みとして、会場づくり、行催事、会場運営、観客誘致など、多様な協働・参加の場を提供する。
- ・協働参加する段階についても、企画、計画、実践など各段階のステージを提供し、協働に参加しやすいスタイルを提供する。

③ 協働しやすい環境づくり

- ・展示や行催事開催にあたって、より大きな魅力を発信するために、協働する団体に参画を得られやすい環境づくりを検討する。

1-3. フェアの展開

- ・今回のフェアは、「協働」を積極的に推進していくフェアとすることから、ここで定める「時間のデザイン」や「空間のデザイン」は、「協働」について調整等をする上の基本的な考え方を示したものであり、協働の内容の熟度に合わせて計画内容の調整等を適宜図るものである。
- ・フェアにおいてはあいちの花を原則使用し、「花の王国あいち」を広くPRする。

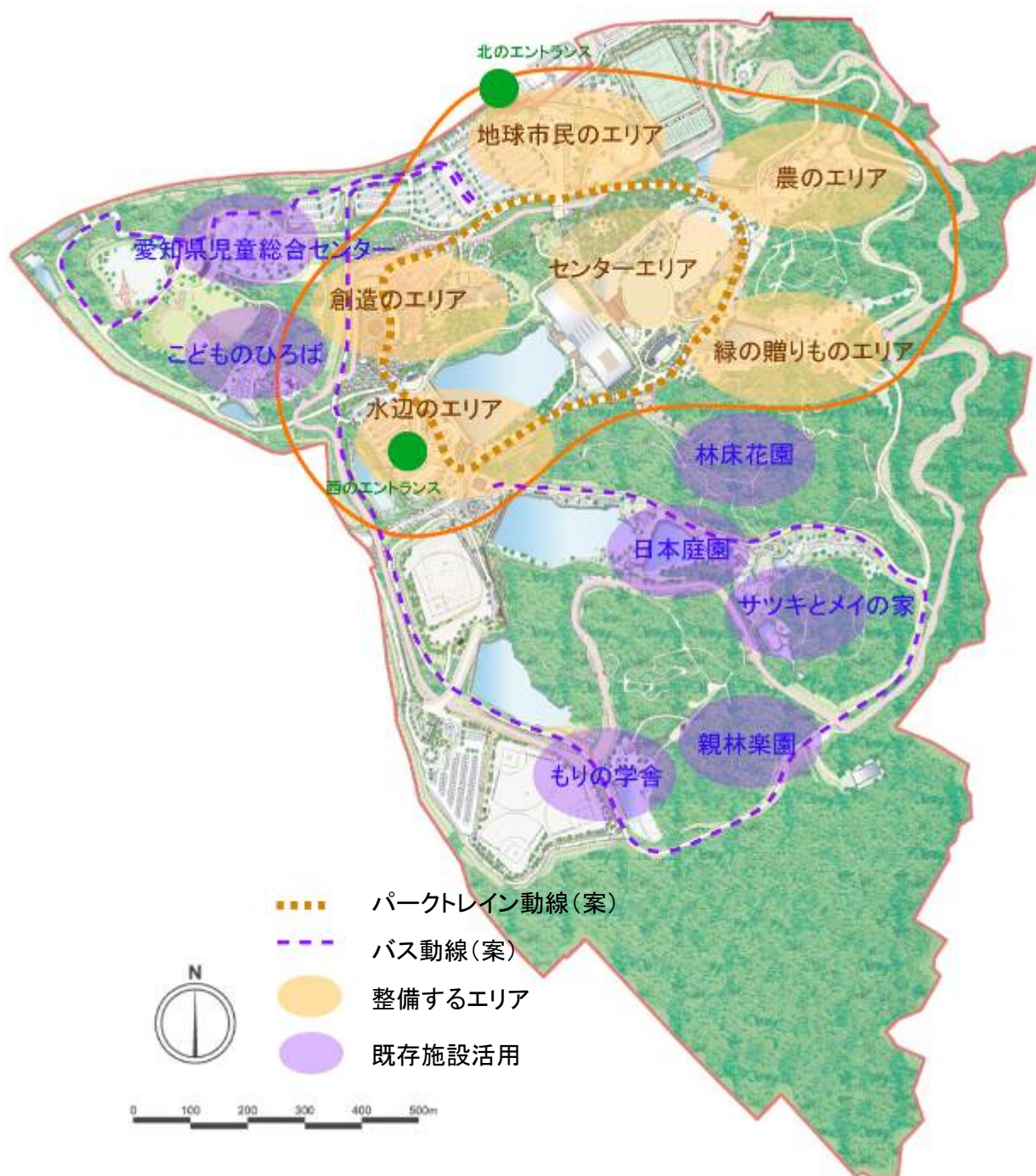
時間のデザイン ～催事・展示の展開～

- ・季節の移ろいととも、愛知万博や COP10などの記念日や祝祭日を踏まえ、会期を4つのテーマに区分する。
- ・各期間テーマに応じた展示や行催事等を、テーマに関わる人々との協働により行う。

あいち・花と緑の報告祭 ～モリゾー・キッコロを迎えて～				
期 間	第1楽章 `想`	第2楽章 `活`	第3楽章 `生`	第4楽章 `歓`
	愛知万博の思い出と未来への想いを再確認する章	初秋に心を躍らせ様々な活動を展開する章	深まる秋に、自然の恵みに感謝し生きている実感に喜ぶ章	フェアの思い出を刻み、次の10年に向けた出発点となる最終章
	9/12(土) ～9/27(日) (16日間)	9/28(月) ～10/12(月) (15日間)	10/13(火) ～11/1(日) (20日間)	11/2(月) ～11/8(日) (7日間)
愛・地球博最終日 (平成17年9月25日)		COP10最終日 (平成22年10月29日)		
行 催 事	モリゾー・キッコロと子供たちの交流会など	自然とふれあう運動会など	あいちの花の展覧会 秋の味覚満載食事会など	お花の馬車のパレードなど
				
フェア開催期間を通してのテーマ(例:「環境」、「交流」、「復興」等)に即した催し等を検討する。				
万博				花

空間のデザイン ～会場の展開～

- ・会場は現在の供用区域を中心に展開するが、区域が広大なため、主たる会場は公園の北側とする。南側の区域は、既存の施設を活用する。
- ・ループ状の既存園路沿いに、整備するエリアを配置し、回遊性を持たせた会場とする。
- ・愛・地球博記念館や花の広場など、万博や花に関する既存施設を活用する。
- ・各エリアでは、愛知の風土や自然環境を感じさせる演出などを考慮する。



1-4. 全県での展開

- ・あいちフェアの来場者に、県内各地の公園や花の名所などを紹介し、愛知の緑豊かなまちづくりの啓発につなげていくため、メイン会場(愛・地球博記念公園)とともにフェアの全県展開を図る。

(1) 基本方針

- ・基本構想にある「サテライト会場」「協賛会場」については、市町村、民間と施設の設置管理者により整理していたが、それらを統合して「サテライト会場」とする。
- ・これとは別に、フェア期間中に限らず県民の方々にフェアを身近に体感していただくことを目的に、「ふれあい拠点」を設ける。
- ・メイン会場のほか、市町村や企業等と連携を図り、全県展開を推進する。

○サテライト会場の展開

- ・あいちフェアの期間中、公園、観光拠点や花や緑の名所等にも、メイン会場である愛・地球博記念公園の来場者に足を運んでもらえるよう検討する。

【公共(市町村等)】:公園等

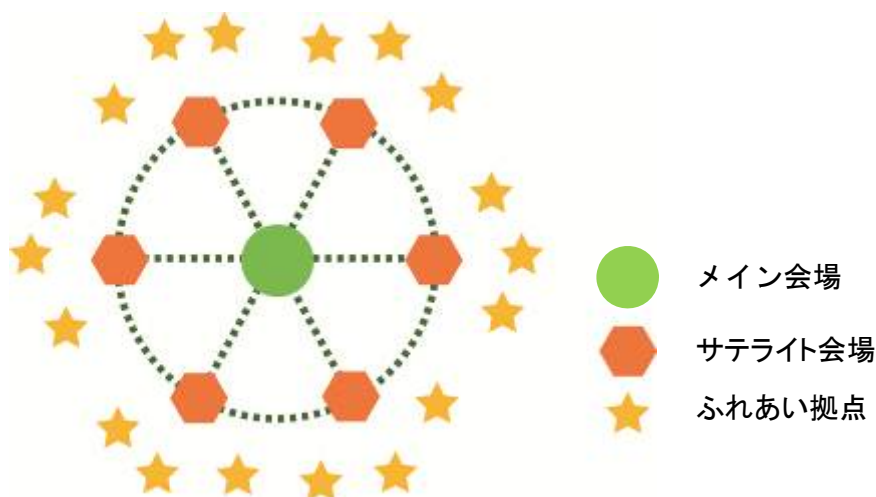
【民間(企業・県民・NPO等)】:民間観光拠点、花の名所等

○ふれあい拠点の展開

- ・あいちフェアの準備～終了までの間で、県内各地で実施されている花や緑の活動の場の中から、地域を代表するものなどを、「ふれあい拠点」として位置付ける。
- ・「ふれあい拠点」にはモリゾー、キッコロが訪れるなど、フェアを身近に体感できるよう検討をする。

【公共(市町村等)】:庁舎、学校(保育園など)、駅前、川沿い、道路沿い等

【民間(企業・県民・NPO等)】:ホテルやカフェ、商店街の多くの人が目にする場所等



図Ⅱ-2 サテライト会場、ふれあい拠点のイメージ

(2) サテライト会場の連携

- ・メイン会場とサテライト会場の相乗的な効果を高めるために、各会場の連携のための仕組みづくりを行う。

【展開例】

「あいち緑・花（りよっか）マップ（仮称）の作成

- ・サテライト会場を来場者にわかりやすく紹介するために、地域別にマップなどの作成を検討する。

【あいち緑・花マップ（仮称）のイメージ】



	名称	見どころ	9月	10月	11月
①	〇〇公園	メイン花壇ほか		コスモス	
			コリウス・アンゲロニアなど		
②	〇〇公園	珍しいランの展示		デンファレ・バンダなど（アトリウム内）	
			サルビアなど（庭園）		
③	〇〇公園	大規模ガーデンほか	サルビア・マリゴールドなど		
			ダイヤモンド・リリー・キクなど		
④	〇〇施設	ヒマワリ、松葉ギク、ポーチュラカ	ヒマワリ・松葉ギク・ポーチュラカ		
⑤	〇〇公園	フラワーガーデン	マリゴールド・コスモスなど		
					ヒオラ・ハボタンなど
⑥	〇〇公園	紅葉		モミジ	
・	・	・			
・	・	・			
・	・	・			
・	・	・			